



ジャパンバードフェスティバル 2019 が  
「第25回ふるさとイベント大賞」大賞（内閣総理大臣賞）を受賞

2019年11月2日（土）、3日（日）に開催したジャパンバードフェスティバル2019が、「第25回ふるさとイベント大賞」において大賞（内閣総理大臣賞）を受賞しました。

ふるさとイベント大賞は、一般財団法人地域活性化センターが主催のもと、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントの中から特に優れたものを表彰し、全国に向けて紹介することで、ふるさとイベントの更なる発展を応援することを目的とした賞です。

第25回は、全国で125件の推薦がありました。その中で、鳥をテーマにしたイベントでは来場者数、出展数ともに国内で最大級であり国際的な繋がりもあること、大人から子どもまで楽しめるイベントであること、そして地域の交流や環境保全意識の向上に寄与していることなどが評価され、受賞となりました。なお、ジャパンバードフェスティバルは平成13年に第1回を開催し、昨年第20回を迎えています。

表彰式は、令和3年3月4日（木）にオンラインにて開催され、その様子はYouTubeLiveにてどなたでも視聴可能です。

【表彰式】

1. 日 時：令和3年3月4日（木） 午後1時～2時
2. 出席者：内山 春雄（ジャパンバードフェスティバル実行委員会副実行委員長 / 所属：日本バードカービング協会（会長））
3. 公開サイト：地域づくりTV (<https://youtu.be/-yI5bzuS1ZE>)

【別添資料】

- （別添1）受賞に関する我孫子市長コメント
- （別添2）ジャパンバードフェスティバル2019概要
- （別添3）一般財団法人地域活性化センタープレスリリース



【問い合わせ】

我孫子市環境経済部手賀沼課内  
ジャパンバードフェスティバル実行委員会  
担当 辻、村尾  
☎ 04-7185-1484

## 受賞に関する我孫子市長コメント

市で開催されているジャパンバードフェスティバルが、ふるさとイベント大賞において、名誉ある内閣総理大臣賞に輝いたことを大変うれしく思います。

ジャパンバードフェスティバルは市の中でも大変人気のイベントであり、日本最大級の野鳥イベントであることから、市外、国外からも多くの方が訪れます。市のシンボルである手賀沼の周辺では、そこで暮らす沢山の鳥たちが見られるだけでなく、日本で唯一の鳥を専門とした「鳥の博物館」、そして鳥の分野では名高い「山階鳥類研究所」があるなど、人と鳥との共存を目指したまちづくりに取り組んでいます。

今後もより多くの方に、楽しみながら野鳥の魅力を知っていただく機会として発展していくよう、市としても実行委員会と協力し、開催していきます。

令和3年2月12日

我孫子市長 星野 順一郎



# Japan Bird Festival 2019

～人と鳥の共存をめざして～

## ■開催主旨

自然のシンボルである鳥たちの魅力を題材とした芸術的・文化的な事業をはじめ、科学的な鳥類知識の普及及び教育的・環境的視点にたった事業の実施を通して、新しい地域文化の創造及び人と鳥が共存する豊かな生活を目指しています。併せて日本各地および世界にその情報を発信し、芸術文化の素晴らしさや身近な取り組みから自然環境の大切さをアピールしていきます。

ジャパンバードフェスティバルは日本最大の鳥のイベント！！  
毎年およそ4万人の来場があります。

## ■JBF2019 PRポイント

①野鳥が好きになれるかも?! 様々な講演会

②海外から7ヶ国(9団体)の出演

モンゴル(2団体)、台湾(2団体)、フィリピン、タイ、ミャンマー、  
グアテマラ、コスタリカ

①野鳥が好きになれるかも?! 様々な講演会

●鳥学講座「島の鳥類学-南西諸島の鳥をめぐる自然史-」

: アビスタホール

講師: 高木 昌興 (たかぎ まさおき 北海道大学大学院理学研究員 教授)

『島の鳥類学』の面白さ-リュウキュウコノハズクを例に-

水田 拓 (みづた たく 山階鳥類研究所保全研究室長)

『南西諸島の鳥類学』の面白さ-オオトラツグミを例に-

講演後、尾崎清明 (おざき きよあき) 山階鳥類研究所副所長を交えてのディスカッション

共催: (公財) 山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館

鳥学講座は第一線で活躍している鳥類研究者を講師に招き、自身の研究やプロジェクトについて、来場された方々に興味・関心をもっていただけるようにお話しいただくものです。

南大東島を中心に、広く南西諸島をフィールドとして、リュウキュウコノハズクの生物地理をはじめ、さまざまな研究を続けている高木昌興氏と、奄美大島で生物多様性の保全に携わりながらオオトラツグミの生態研究を行っている水田拓氏の二人がお話します。講演のあと、ヤンバルクイナの調査研究に、発見のときからかかわってきた尾崎清明・山階鳥研副所長も参加して、会場からの質問をいただいでのディスカッションも行います。



昨年の会場の様子



リウキュウコノハズク



オオトラツグミ

なお、ジャパンバードフェスティバル開催中、山階鳥類研究所では、講堂で所員が交替でスライドによる研究紹介を行う「見にレクチャー」を今年も開催します(整理券による総入れ替え制)。また、鳥の博物館は入場無料で、企画展、鳥の工作、折り紙など様々な催しが開催されます。

### ●野鳥撮影講座

講師：山田 芳文 (野鳥写真家)

主催：ソニーマーケティング(株)

野鳥専門誌、カメラ専門誌などでおなじみの野鳥写真家による特別講座です。鳥の魅力を最大限に引き出す美しい撮影表現や構図について、一般の方の撮影写真や山田氏の作品を交えながらわかりやすく解説していただきます。

：アビスタホール



### ●光学機器メーカー出展社による撮影体験、セミナー

：水の館

- ・「野鳥写真家・菅原貴徳による OM-D 体験会」(オリンパス 事前申込制)

普段聞くことのできない写真家の野鳥の撮影方法やカメラの使い方など、実際に撮影をしながらお話し頂きます。

- ・「戸塚学 キヤノン野鳥撮影セミナー」(キヤノン)

野鳥写真撮影についてのポイントを解説いたします。

この他にも、光学関係の各ブースでは最新モデルの体験ができます。

その他

- ・全日本鳥フォトコンテスト審査員による講演会 (アビスタ)
  - ・双眼鏡・望遠鏡体験 (水の館)
  - ・湖畔バードウォッチング (常時、手賀沼湖畔の野鳥を観察できるスペース)
  - ・船上バードウォッチング (毎年満員御礼。遊覧船で手賀沼内の野鳥を観察します)
- など、野鳥を好きになるきっかけになりそうなイベントや展示が盛りだくさんです。

### ②海外から7ヶ国(9団体)の出展

：オオバン広場、水の館2階

J B F 2 0 1 9では昨年に引き続き、モンゴル(2団体)、台湾(2団体)、フィリピン、タイ、が参加するほか、新たにミャンマー、グアテマラ、コスタリカからも参加があります。海外団体にはオオバン広場に於て展示ブースを展開していただくほか、水の館2階において海外の珍しい鳥や自国の文化など、紹介スライドショーを上映します。

日本では見ることのできない様々な野鳥の紹介や、現地の雰囲気漂う展示や衣装を是非ご覧ください。近年は実行委員からお声掛けがなくとも出展の希望があるなど、鳥によって我孫子と世界が橋渡しされ、より国際的になってきています。



モンゴル



タイ



フィリピン

海外出展国紹介スライドの一部

■その他のイベント紹介

●鳥をはじめとする自然環境に関する講演

○ゲストトーク『台日野鳥交流活動-海外野鳥観察旅行の新たな楽しみ方-』 : 鳥の博物館

講師：林 憲文 (台湾鳥会)

間野 吉幸 (我孫子野鳥を守る会 前会長)

台湾の鳥の魅力と、市民レベルでの野鳥交流活動の醍醐味についてご講演頂きます。台湾は日本と同様に島国であり、面積は九州と同じくらいですが、固有種の数は日本より多く、合計29種が知られています。毎年、日本から多くのバードウォッチャーが訪れますが、その魅力を台日双方の視点から語って頂くのは、ゲストトークで初の試みです。

また、鳥の博物館では企画展「世界からみた日本の鳥」を開催しており、ゲストトークと合わせて、野鳥を通して世界との繋がりを感ずることができます。

○講演会『野鳥図鑑に真摯に向き合う～描き手・書き手・送り手それぞれの立場から～』

: 水の館

講師：谷口 高司、大西 敏一、瀬古 智貫

野鳥図鑑が、どのような行程を経てお手元に届くのか。国内外含め日本で一番図鑑を描いている谷口高司・バードコンサルタントで「日本の野鳥650」等の著者大西敏一、「山野の鳥」「水辺の鳥」など昭和・平成・令和を生き抜く図鑑の編集に心を砕く瀬古智貫。描き手、書き手、送り手、それぞれの立場から、図鑑が世に出るまでの様々な出来事を語り尽します。

- 絵画展、鳥の彫刻展 (バードカービングによる社会貢献) : アビスタ
- 鳥フォトコンテスト写真展 (およそ 1,000 点以上を展示) : アビスタ
- 野鳥に関連した小物づくり体験 : アビスタ
- 鳥グッズ、書籍、野鳥観察道具などの展示・販売 : 手賀沼親水広場、オオバン広場
- 行政、NPOなどの活動紹介展示 : 手賀沼親水広場、オオバン広場
- 小・中・高校生による環境学会 (11月3日10:00～) : 水の館3階研修室

●全日本“鳥”フォトコンテスト (BIRD-1 グランプリ)

ジャパンバードフェスティバル実行委員会が主催する野鳥写真のコンテストが、今年で第10回目を迎えました。グランプリ作品に文部科学大臣賞 (生態・行動部門)、環境大臣賞 (環境部門) を授与するほか、10周年特別記念賞、協賛企業が選出した企業賞を含め、全25作品が入賞しました。応募作品のほとんどは、11月2日 (土)、11月3日 (日) にアビスタミニホールに展示します。また、毎年人気の審査員による講演会も11月3日 (日) に開催します。

## 応募総数

生態・行動部門	264人	675点
環境部門	109人	270点
総数	373人	945点



JBF2019 生態・行動部門グランプリ

文部科学大臣賞

「一瞬」

撮影地：奈良県宇陀市

可児 勝彦さん（岐阜県在住）



JBF2019 環境部門グランプリ

環境大臣賞

「見つめ合う」

撮影地：東京都荒川区

瀧脇 雅之さん（東京都在住）

【報道解禁】 令和3年2月12日(金) 14:00以降

## 第25回ふるさとイベント大賞 各賞決定！

大賞(内閣総理大臣賞)は

「**ジャパンバードフェスティバル2019**」(千葉県我孫子市)



地域活性化センターでは、各地域のイベントの創造・発展による地域活性化を目的とし、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを「ふるさとイベント大賞」として1996年に創設、表彰しています。

この度、第25回の受賞8イベントが決定し、以下のとおり表彰式を開催いたします。

### ★表彰式(オンライン開催)★

日時:令和3年3月4日(木) 13:00 ~ 14:00

URL: <https://youtu.be/-yI5bzuS1ZE>

受賞イベントの主催団体とプレゼンター(北川フラム選考委員長、角田光代選考委員ほか)をオンラインで繋ぎ、YouTubeでライブ配信します。

#### 【問い合わせ先】

一般財団法人地域活性化センター 振興部 地域創生グループ 担当:西田、岩崎

TEL:03-5202-6136 FAX:03-5202-0755 E-mail:event@jcrd.jp

HP: <https://www.jcrd.jp/>

●受賞イベント一覧

各賞	受賞イベント名	市町村	主催団体
大賞 (内閣総理大臣賞)	ジャパンバードフェスティバル2019	千葉県 我孫子市	ジャパンバードフェスティバル実行委員会
最優秀賞 (総務大臣表彰)	全国高等学校ファッションデザイン選手権大会「ファッション甲子園」	青森県 弘前市	ファッション甲子園実行委員会
優秀賞 (地域活性化センター会長表彰)	全国500歳野球大会	秋田県 大仙市	500歳・550歳野球大会実行委員会
優秀賞 (地域活性化センター会長表彰)	廃線ウォーク	群馬県 安中市	一般社団法人 安中市観光機構
優秀賞 (地域活性化センター会長表彰)	大川木工まつり	福岡県 大川市	大川木工まつり実行委員会
ふるさとキラリ賞 (選考委員会表彰)	アンマンド UNMANNED 無人駅の芸術祭/ 大井川	静岡県 島田市	特定非営利活動法人クロスメディアしまだ
ふるさとキラリ賞 (選考委員会表彰)	まちぐるみ Wedding	山口県 光市	光市おせっかいプロジェクトチーム
選考委員特別賞 (選考委員会委員長表彰)	ろっがっどう 都城六月灯 おかげ祭り	宮崎県 都城市	おかげ祭り振興会

●概要

全国各地の地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国へ向けて紹介することにより、ふるさとイベントの更なる発展を応援するもので、大賞（内閣総理大臣賞）のほか最優秀賞（総務大臣表彰）など各賞が選考委員会で選出されます。今回で25回を迎え、第24回までに178の個性豊かなイベントを表彰しています。第25回の応募総数は125件、うち8つのイベントが受賞されます。

●応募対象イベント

平成31年1月1日から令和2年6月30日までに開催されたイベント。

●選考委員会

【選考委員長】 北川 フラム（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役）

【選考委員】 内原 智史（有限会社内原智史デザイン事務所代表取締役）

楓 千里（國學院大學研究開発機構教授）

角田 光代（作家）

吉本 光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事）

出田 恵三（NHK制作局制作主幹）

古尾谷 光男（全国知事会事務総長）

大村 慎一（総務省大臣官房地域力創造審議官）

椎川 忍（一般財団法人地域活性化センター理事長）



# 第25回

# ふるさとイベント大賞

## 受賞イベントの概要

令和3年2月12日

## 【 目 次 】

### 大賞(内閣総理大臣賞)

ジャパンバードフェスティバル2019 (千葉県我孫子市)	2
------------------------------	---

### 最優秀賞(総務大臣表彰)

全国高等学校ファッションデザイン選手権大会「ファッション甲子園」 (青森県弘前市)	3
--	---

### 優秀賞(地域活性化センター会長表彰)

全国500歳野球大会 (秋田県大仙市)	4
廃線ウォーク (群馬県安中市)	5
大川木工まつり (福岡県大川市)	6

### ふるさとキラリ賞(選考委員会表彰)

UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川 (静岡県島田市)	7
まちぐるみWedding (山口県光市)	8

### 選考委員特別賞(選考委員会委員長表彰)

都城六月灯 おかげ祭り (宮崎県都城市)	9
----------------------	---

# ジャパンバードフェスティバル2019

ジャパンバードフェスティバル実行委員会(千葉県我孫子市)

## 【概要】

「人と鳥との共存」を目指し、鳥類知識の普及と教育的、環境的視点に立ったイベント。都心に最も近い天然湖沼である手賀沼周辺で開催している。鳥の研究・保護活動を知ることができるだけでなく、鳥をモチーフにした芸術的・文化的な作品やグッズなど、100以上のブースが多くの人の心を惹きつけている。



## 【評価のポイント】

- ・鳥をテーマにしたイベントでは来場者数、出展数ともに国内で最大級となっている。
- ・鳥をテーマにした国際的な繋がり(海外で実施されているバードフェスティバルでの知名度も高くなっており、2018年には台湾で開催されたアジアンバードフェアに招待される)があり、大人のみならず子供に興味を沸かせることができおり、広がりのあるイベントである。
- ・鳥や自然環境についての調査研究・保全・啓発活動を行っている団体・学生・企業とも連携しており、地域の交流が生まれているほか、環境保全意識の向上に寄与している。
- ・何処で始めてもおかしくない、或る意味では普遍的なテーマであるだけに、それを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できる。



## 最優秀賞（総務大臣表彰）

# 全国高等学校ファッションデザイン選手権大会 「ファッション甲子園」

ファッション甲子園実行委員会（青森県弘前市）

### 【概要】

ファッション甲子園は、21世紀のファッション界を担う人材の発掘及び若者の夢の創造をねらいとして開催する高校生による高校生のためのファッションコンテスト。



### 【評価のポイント】

- ・高校生の創造力やデザイン力向上、チャレンジ精神の育成に大きく寄与している。
- ・全国でも希有な地域活性化イベントとして青森県のイメージアップに貢献するとともに、高校生を対象とした斬新な取組は国内外のファッション関係企業等から支持・支援を受け、さらに地域においても、大会開催で培われた国内ファッション関係者との人脈を活かしたアパレル産業活性化に係る独自の取組が展開されている。
- ・何処で始めてもおかしくない、或る意味では普遍的なテーマであるだけに、それを企画し、続けた人たちの努力は大変なものだと想像できる。



## 全国500歳野球大会

500歳・550歳野球大会実行委員会(秋田県大仙市)

### 【概要】

「出場選手9人の合計年齢が500歳以上」という独自のルールで開催している野球大会。「野球に燃える親父たちの甲子園」のキャッチフレーズのもと、全国各地から集結した選手たちが3日間にわたり熱戦を繰り広げている。



### 【評価のポイント】

・県内でも盛り上がりを見せており、高齢者の健康づくりや長寿社会に大きな役割を果たしている。

・全国大会に発展したことで県外各地から多数のチームが参加し、チーム同士の交流が図られたほか、大会後に大仙市内の観光地を訪れるなど、経済的な波及効果にも繋がっている。

・県外チームの歓迎として、小学生が特製幟旗をプレゼントしており、作成時に出場チームの地域などを調査するため、社会的学習の機会にもなっている。



## 廃線ウォーク

一般社団法人安中市観光機構(群馬県安中市)

### 【概要】

1997年に廃線となった信越本線新線の横川-軽井沢区間を特別開放してウォーキングを楽しめる体験型観光コンテンツ。今なお残る鉄道設備、日本一の急勾配区間、碓氷峠の大自然を舞台に進めば「ここでしかできない冒険」が待っている。



### 【評価のポイント】

・廃線となった線路を地域資源と捉え、観光に活かしている。鉄道の衰退の中で、鉄道が持っていた人々の記憶を呼び戻させるものである。

・地域、観光、経済団体と連携した観光による地域づくりを進めることにより、地域の稼ぐ力を創出することに寄与している。

・今年度は新型コロナウイルスの影響により、VR映像を活用したコンテンツを提供。普段は立ち入ることができないトンネル内や360度の景色を楽しむことができ、緊急事態宣言下で外出ができない中、十分ファンを楽しませた。



## 大川木工まつり

大川木工まつり実行委員会(福岡県大川市)

### 【概要】

家具生産地大川最大のまつり「大川木工まつり」は、480年の歴史がある。

大川木工を地域資源として、世界に誇れる匠の技を継承し、家具の展示即売や木工体験等ものづくりを通して、夢と感動を与える取組がまつりの魅力となっている。

### 【評価のポイント】

・家具メーカー約200社による家具等の展示販売をはじめ、大川家具の職人の技術とセンスが詰まったネコ家具などを展示し、職人の技術の高さを一般消費者に発信している。

・リピーターも多く、来場者が過去最高の20万人を達成した。

・産業祭部の売上が約1億9,200万円と過去最高を記録。

・展示販売だけでなく、親子木工教室、小学生木工工作展、高校生作品展などを実施し、伝統継承と次世代育成にも尽力している。



アンマンド

## UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川

特定非営利活動法人クロスメディアしまだ(静岡県島田市)

### 【概要】

「無人駅がひらくと地域がひらく」をキーコンセプトに、アートを手法とした地域再生の取組。アーティストが地域資源や人々の魅力、時には課題をも顕在化させ、無人駅を核とした集落到息づく「記憶」「風景」「営み」を掘り起こし表現している。



### 【評価のポイント】

- ・「無人駅」という場を地域資源と捉え、アートの視点で地域の魅力を掘り起こしている。
- ・国内外で活躍する複数のアーティストが滞在し、無人駅とそこから広がる集落の資源に焦点を当てた作品や、地域の人々と一体となった体験型の作品を展開。
- ・作品表現や来訪者との交流により、地域への誇りを持つことに繋がっている。





## まちぐるみWedding

光市おせっかいプロジェクトチーム(山口県光市)

### 【概要】

新たな門出を迎えた2人を、「亭主関白・かかあ天下争奪綱引き」や「幸せお裾分けの餅まき」等によりまちぐるみで祝福する。市民が、2人のために「やさしさ」を持ち寄り、祝福する“おせっかい”なWedding。



### 【評価のポイント】

- ・イベントの飾り付けや演奏は子どもたちが行っており、会場の装飾作成には、小学生約1,000人が携わっている。
- ・企画から運営まで、その人材や資源の9割以上を地元でまかなっている。
- ・主役となる新郎新婦の定住意識を高めることを促進するのはもとより、光市の「人のやさしさや温かさ」を「結婚式」というツールを使って「まちぐるみ」で体現することで、まちへの愛着感の醸成に繋がっている。



ろがっどう

## 都城六月灯 おかげ祭り

おかげ祭り振興会(宮崎県都城市)

### 【概要】

都城盆地の夏の風物詩である「六月灯」は、旧薩摩藩領に伝わる夏祭り。

都城の総鎮守と言われる神柱宮の六月灯に合わせて開催されるお祭りです。毎年7月8日(宵祭り)・9日(本祭り)の2日間の日程で開催され、祭り当日は35,000人とも言われる人出で賑わっている。



### 【評価のポイント】

・商店街の謝恩イベントの廃止を契機に、地域コミュニティの再生手段として始まったイベント。

・開始当時は20人程度だったが、今では1,500人が参加。

・見物客も35,000人に増えている。

・祭り普及に関する文化活動等の一環として、小中学校への「ふるさと学習」への派遣など、後継者の育成にも注力している。

